

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年11月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

2021/10/29

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは10月29日（木）9:00現在
※休日の実績は前営業日

	10月28日現在 (矢印は9月末比)	11月の予想
USD	ドル・円 (円) ↗ 113.58	↘ 112.00 ~ 115.00
	FRBは利上げには距離、原油上昇一服なら円買戻し余地	
EUR	ユーロ・ドル (ドル) ↗ 1.168	↘ 1.14 ~ 1.18
	ユーロ・円 (円) ↗ 132.67	↘ 129.00 ~ 134.00
	主要中銀が正常化に向かうなか、日銀とECBの出遅れが意識される	
GBP	ポンド・ドル (ドル) ↗ 1.379	↘ 1.34 ~ 1.39
	ポンド・円 (円) ↗ 156.65	↘ 154.00 ~ 158.00
	金融市場は利上げを既に織込み、ポンドは反落しやすい環境	
AUD NZD	豪ドル・円 (円) ↗ 85.68	⇒ 84.00 ~ 88.00
	NZドル・円 (円) ↗ 81.79	⇒ 80.00 ~ 84.00
	中期的な上昇見込むが、一旦は円買い戻しも入りやすくもみ合い	
株式 相場	日経平均 (円) ↘ 28,820	⇒ 27,800 ~ 30,000
	宣言解除がサポートも原油高やグローバル景気頭打ちが上値抑える	
	NYダウ (ドル) ↗ 35,730	⇒ 33,500 ~ 35,500
	決算発表一巡し、金融緩和正常化の動きが景気敏感株の重石に	
長期 金利	日本 (%) ↗ 0.093	⇒ 0.05 ~ 0.13
	上昇局面では国内投資家の買いも入りやすく横ばい圏	
	米国 (%) ↗ 1.580	↗ 1.45 ~ 1.75
	足もと進んだイールドカーブのフラット化の反動で上昇予想	

◆ 今月の注目ポイント

主要国の金融政策スタンスに変化も

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気 動向	◎	【グローバル経済にはピークアウト感も】主要国のPMI等の指標をみると、引き続き景気回復基調は続くが、前半の強い回復からはやや回復ペースが鈍化している。米国ではインフレが消費者マインドに与える悪影響、中国ではゼロコロナ志向によるコロナ規制や電力不足、不動産規制等の動向が経済下押し要因として懸念される。国内企業の9月決算は総じて好調となろうが、焦点は先行きリスクに移りつつある。
金融 政策	◎	【主要国の政策スタンスに変化】11/3に結果発表されるFOMCではテーパリングの開始がアナウンスされる見通し。また11/4のBOE（英中銀会合）では高インフレ環境の警戒から利上げ観測も熾っている。政策維持が見込まれる日銀とECBとの間にスタンスの違いも生じる。
政治	○	【環境対応と原油価格】11月上旬に英国で行われるCOP26では、欧州を中心に温室効果ガス排出削減に向け具体的な議論がみられるだろう。一方で拙速な環境対応がエネルギー高につながっている指摘も、原油価格が高止まりする中、11/4のOPECプラス会合が注目される。

◆ アジア通貨見通し

人民元・円	↘ 17.4 ~ 17.9	ルピー・円	↘ 1.47 ~ 1.53
バーツ・円	↘ 3.30 ~ 3.50	ウォン・円	↘ 9.40 ~ 9.80
ルピア・円	⇒ 0.79 ~ 0.81		

◆ 今月の重要日程

31日(日) 他 COP26会議(英、10/31-11/12)	15日(月) 日 21/3Q GDP<1次速報>
2日(火) 豪 RBA理事会	15日(月) 中 10月生産・小売・投資
3日(水) 米 FOMC(結果発表)	16日(火) 米 10月小売売上高
4日(木) 英 BOE金融政策委員会	19日(金) 日 10月CPI
5日(金) 米 10月雇用統計	23日(火) 欧 11月PMI
10日(水) 米 10月CPI	24日(水) 米 FOMC議事録(11/2、3日分)

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

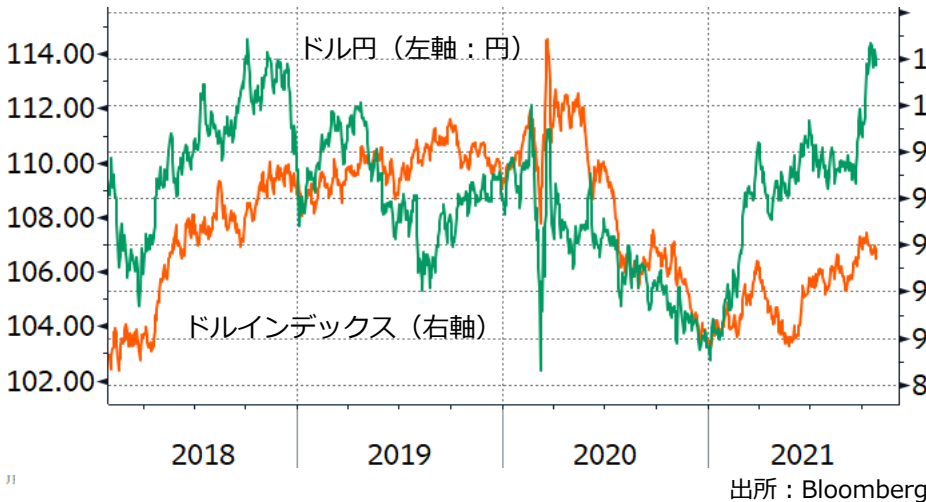
© 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円



ドル円は下落

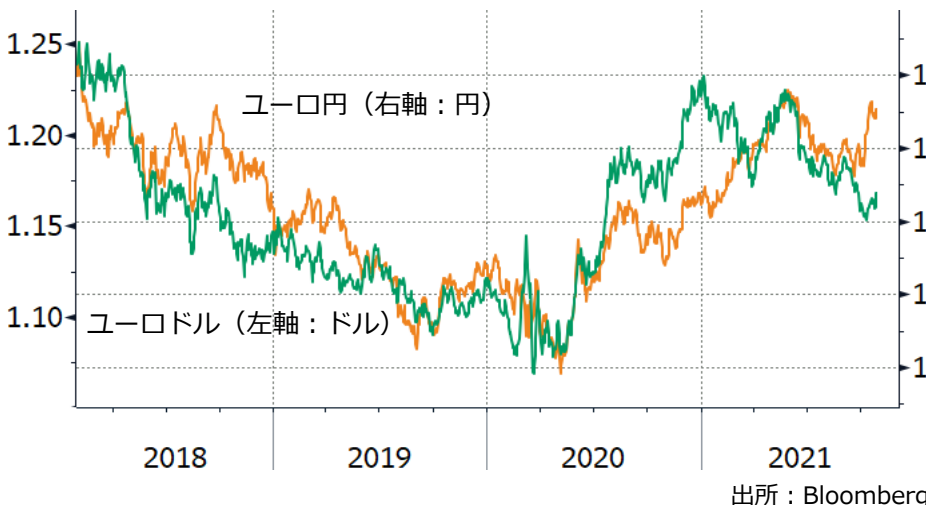
112.00 – 115.00円

FRBはテーパリング開始も利上げには距離、原油上昇一服ならJPYに買戻し余地

10月のドル円相場は上昇トレンドが継続し、一時114円台後半まで上値を伸ばす場面があった。米国のインフレ警戒とFRBの早期利上げ観測の高まりによりUSDが底堅く推移したことに加え、原油高や資源高を通じて国内の交易条件が悪化すると思惑がJPY売り材料と捉えられ、JPYが全ての主要通貨に対して売られる独歩安の商状となったことが、ドル円を大きく押し上げた。

11月はその反動の動きが出やすいと考える。今月のFOMCではテーパリングの開始が決定される可能性が高く、いよいよFRBの金融正常化プロセスが開始されるが、市場の関心は既にテーパリングの先の利上げに移っている。金利先物市場ではすでに2022年に2回の利上げが織り込まれており、追加的な織り込み余地は乏しい。FRBがインフレ高進は一時的とのスタンスを変えなければ、過剰に織り込まれた利上げ期待が剥落する場面もあるだろう。世界的な経済正常化と供給制約、環境対応による不均衡等の課題が残る中で資源価格は高止まりしやすいが、FRBが金融正常化に舵を切るとはコモディティ市場に一定の重石となる。投機筋のJPY売りポジションが既に相応に積み上がっていることから、原油価格の上昇ペースが鈍化すれば、JPY買戻しの動きも生じやすい。ドル円は中長期的には底堅い展開を予想するが、今月は一旦、小休止となる。

ユーロ



ユーロドル



ユーロドルは下落

1.14 – 1.18ドル

ユーロ円



ユーロ円は下落

129.00 – 134.00円

世界の中銀が金融正常化に向かうなか、日銀とECBの出遅れが意識される

10月のEUR相場は、原油価格の上昇等を背景としたJPY全面安の影響により、対JPYで大きく上昇した一方、米国の期待インフレ率の上昇とFRBの利上げ期待の高まりを背景としてUSDが底堅く推移したことにより、対USDでは上値の重い展開となった。

足元ではBOE (イギリス)、BOC (カナダ)、RBNZ (ニュージーランド) 等の中銀が早期利上げに向かう可能性が高まっており、世界的な趨勢として中銀のタカ派シフト意識されやすい情勢にある。その中でECBは日銀と並んでハト派寄り位置に位置しており、為替市場全体のなかでは相対的にEURは軟調に推移しやすい通貨となっている。JPYが既に大幅に売り越している一方で、EURの投機筋ポジションは概ねニュートラルな水準となっており、対JPY、対USDともにダウンスайдリスクの大きい商状と言えるだろう。10月の主要3通貨の強弱は当社の想定通り、USD > EUR > JPYとなったが、11月相場はJPY > USD > EURと見る。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

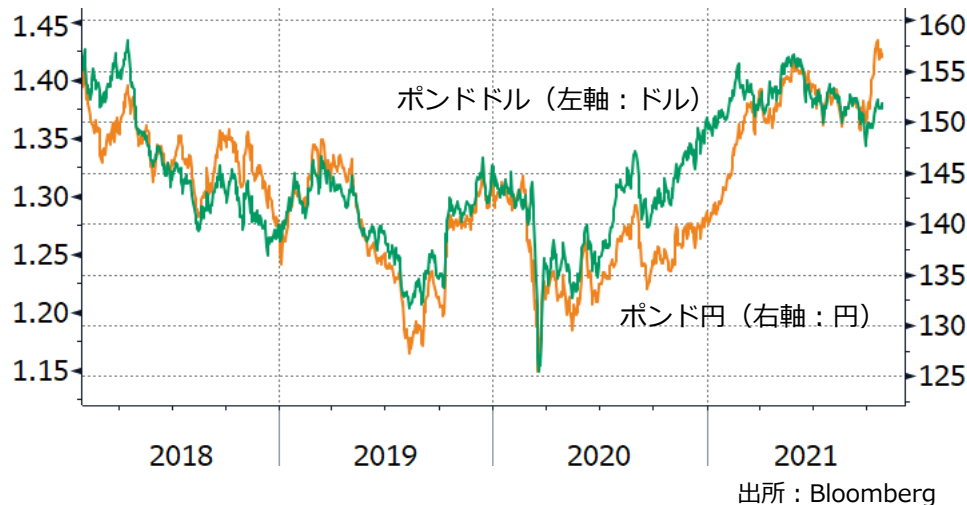
◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



ポンドドル

ポンドドルは下落

1.34 - 1.39ドル

ポンド円

ポンド円は下落

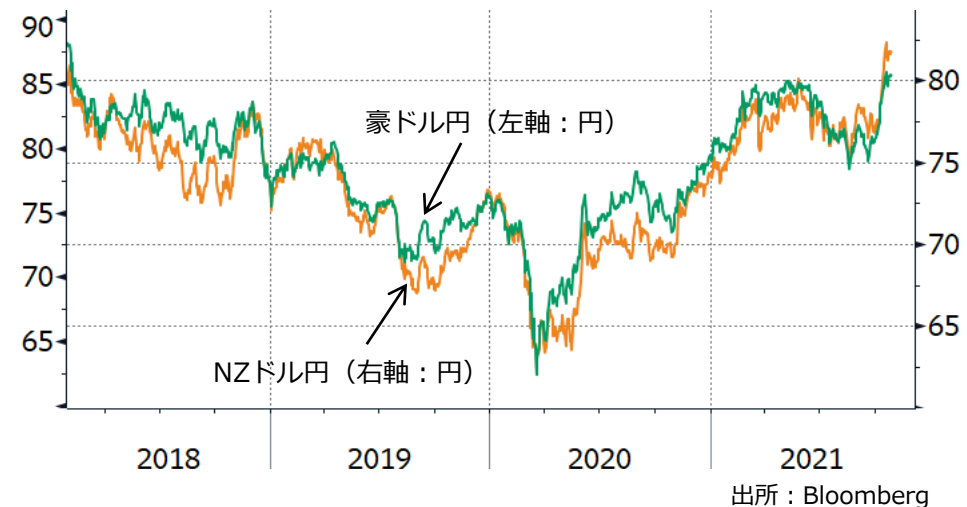
154.00 - 158.00円

金融市場は利上げを既に織込み、ポンドは反落しやすい環境

10月のポンドは対ドル、対円ともに上昇となった。月初に一服したドル高を受け、英金利の上昇もあり、ポンドドルは上昇した。その後も英国のインフレの上昇や英中銀高官のタカ派発言から利上げ観測が強まり、ポンドドルは堅調に推移した。一方、下旬に発表された英CPIが市場予想を下回ったことや英中銀のハト派発言を受け、ポンドドルは上昇幅を縮小した。

11月のポンドは対ドル、対円ともに下落を予想。足元のポンドの上昇は英中銀の年内利上げ期待によるもので、市場はほぼ完全に織り込んでいる。市場の予想通りに利上げが行われても、セル・ザ・ファクトで利益確定売りにより下落するシナリオが想定される。一方、英国ではコロナ規制の解除でコロナ感染状況は再び悪化しており、経済に悪影響が出る可能性がある。早すぎる利上げの経済への影響を考慮して利上げは見送られる場合、ポンド安は不可避だろう。投資筋の円売りポジションは溜まっている現在、ポンドは対円でも下落しやいとみる。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円

豪ドル円は横ばい

84.00 - 88.00円

NZドル円

NZドル円は横ばい

80.00 - 84.00円

中期的に両通貨は上昇とみるが11月の豪ドル円、NZドル円はもみ合い

10月のオセアニア通貨は強い動きで両通貨とも対ドルで4%超の上昇、円安地合いも相俟って豪ドル円、NZドル円は大きくレンジを切り上げた。景気回復期待によるリスク選好地合いと資源高が上昇要因。またNZ中銀は10月会合で他の主要国に先駆けて利上げを実施、豪州でもインフレ指標が堅調に推移しており利上げ前倒しへの思惑が熾っている。

当面の金融政策維持が見込まれる日本と豪州・NZとの金融政策格差、また資源価格の高止まりも当面続くとみており、中期的には豪ドル円、NZドル円はもう一段の上昇余地があるとみている。一方で、投機筋の円売りポジションが積みあがっていることから目先では円の買い戻しも入りやすいとみる。11月の豪ドル円、NZドル円相場は上下に幅を伴いつつもみ合いの展開を予想。豪中銀は11/2の会合で、インフレ警戒や足元切り上がっている金利水準について、YCCやフォワードガイダンス変更を含めどのように対応するか注目される。

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

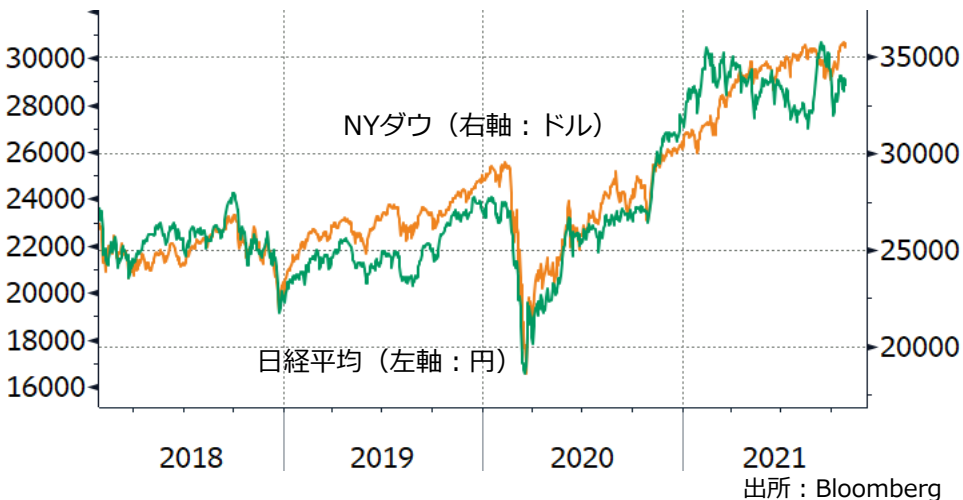
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

⇒ 日経平均は横ばい

27,800 - 30,000円

緊急事態宣言解除がサポートも、原油高やグローバル景気頭打ちが上値抑える

10月の日本株は、月初に27,000円台前半まで下落する場面もあったが、その後は良好な米国の企業決算を受けた米株に連れ高となった。今月の日経平均は横ばいを予想。衆院選は与党の大敗とまらない限りは株価に影響は出づらく、イベント通過から買いも入りやすい。また緊急事態宣言の全面解除は引き続き景気面から株価をサポートしようが、原油価格上昇やグローバルな景気頭打ち感が上値を抑えよう。

NYダウ

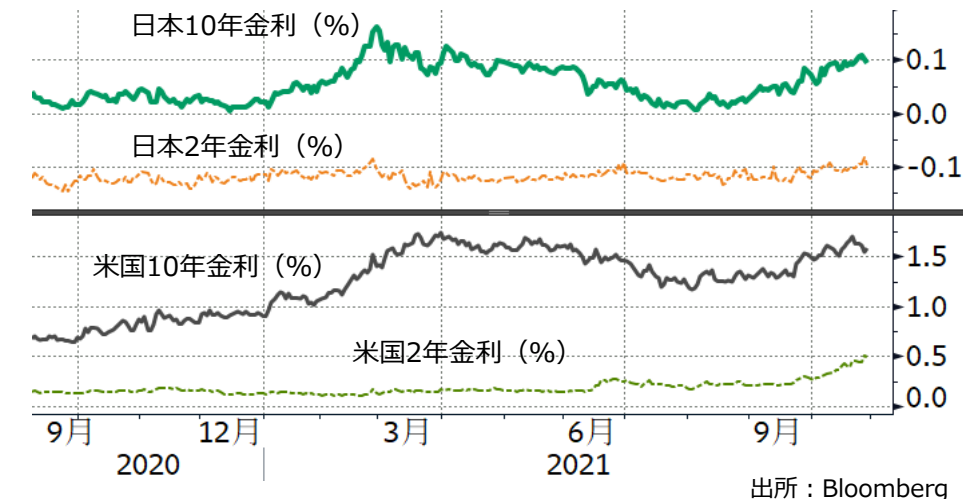
⇒ ダウは横ばい

33,500 - 35,500ドル

決算発表一巡し、金融緩和正常化の動きが景気敏感株の重石に

10月のNYダウは好調な決算発表を受け底堅い推移となり、一時最高値を更新した。今月のNYダウは横ばい推移を予想。決算発表が一巡することや、米国を含む主要国で金融緩和の正常化への動きが見られること、またグローバルに景気回復の頭打ち感が見られる中で、景気敏感株は重石となりやすい。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

⇒ 金利は横ばい

0.05 - 0.13%

上昇局面では国内投資家の買いも入りやすく横ばい圏

10月の円金利は米金利の上昇や財政出動に伴う国債増発懸念等の思惑から半年ぶりに0.1%台を付ける場面もあった。11月の円金利は横ばいを予想。資源価格の高止まりや、主要先進国が金融緩和の縮小に向かう中で金利が上昇基調となっており、円金利にも上昇圧力がかかりやすい。一方で金融政策の方向性の違いや、上昇した局面では国内投資家からの買いも入りやすいことから、大幅な上昇にはならないものと見る。

米国債10年

⇒ 金利は上昇

1.45 - 1.75%

足もと進んだイールドカーブのフラット化の反動で上昇予想

10月の米金利は資源価格上昇から一時1.7%を付ける場面もあったが、月の後半には上げ幅を縮小。今月の米金利は上昇を予想。足元ではグローバルに年限の短い金利が利上げ見込みから上昇する一方、年限の長い金利は早期利上げを懸念して低下傾向となっており、イールドカーブの平坦化（フラット化）が進んだ。市場では来年2回の利上げを織り込んでおりこれ以上の織り込みは難しいとみられ、フラット化の反転で長期金利上昇が想定される。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		10/28		10月の相場推移		11月の予想	解説
中国	人民元/円	17.73	↗	17.17~17.98	↘	17.40~17.90	10月のドル人民元相場はリスク選好のドル安円安地合いのなかで堅調に推移した。ドル人民元は6月以来の6.4割れの水準。米国のテーパリング開始から先行きの利上げも意識され、中国経済に鈍化傾向となる中で、一層の元高は限定的とみる。一方で喫緊の課題となっている資源高への対応には元高はメリットもあり、当局の姿勢はニュートラルとみる。元安方向の動きも限定的だろう。
	ドル/人民元	6.392	↘	6.369~6.471	➡	6.32~6.50	
タイ	バーツ/円	3.422	↗	3.280~3.453	↘	3.30~3.50	10月前半にかけては1ドル34バーツ手前のバーツ安水準でもみ合いが続いたが、その後のドル安地合いでバーツに買い戻しの動きが入った。新型コロナが改善しつつあることはバーツ高要因、11月からはワクチン接種者の隔離なし入国も開始され観光収入の増加期待もある。しかし感染者数の減少ペースは鈍く本格的な回復までの道筋は遠い。金融政策も当面の緩和環境が想定され上値は重い。
	ドル/バーツ	33.28	↘	32.99~33.99	➡	32.5~34.0	
インドネシア	ルピア/円	0.801	↗	0.775~0.815	➡	0.79~0.81	11月のドルルピアは下落(ルピア高)を予想。10月にインドネシア国会で税制改正法案が可決し、財政赤字の縮小が見込まれることや過去最高額を記録した外貨準備高はルピア相場の支え。足元コロナ感染者数が低水準で安定推移し、インドネシア中銀も景気回復支援のため金融緩和スタンスを継続。景気回復期待から株式市場には海外資金が流入しやすく、引き続き堅調に推移するだろう。
	ドル/ルピア	14,173	↘	14,057~14,325	↘	14,000~14,250	
インド	ルピー/円	1.516	↗	1.483~1.530	↘	1.47~1.53	11月のドルルピー相場は上昇(ルピー安)を予想。10月のルピーは原油高や米金利の上昇が嫌気され、軟調に推移した。10月のRBI政策決定会合では総じてハト派のスタンスを維持した。インド国内に石炭不足問題がエネルギー価格高騰と相まって経常収支悪化懸念が強まっている。今月のルピーも軟調な展開が想定される。
	ドル/ルピー	74.92	↗	74.11~75.67	↗	74.00~76.00	
韓国	ウォン/円	9.709	↗	9.323~9.795	↘	9.40~9.80	10月のウォン相場は1ドル1,200ウォン近辺にウォン安が進んだものの、韓国銀行総裁のウォン安けん制発言とドル安地合いもあって、月後半にかけてはウォン高に転じた。11月会合では不動産バブル懸念等から8月に続く利上げも予想されるものの、経済は中国の減速影響に加えて資源高が重しとなりウォン相場は中期的な弱含みが続く予想している。
	ドル/ウォン	1,170	↘	1,164~1,200	↗	1,150~1,200	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

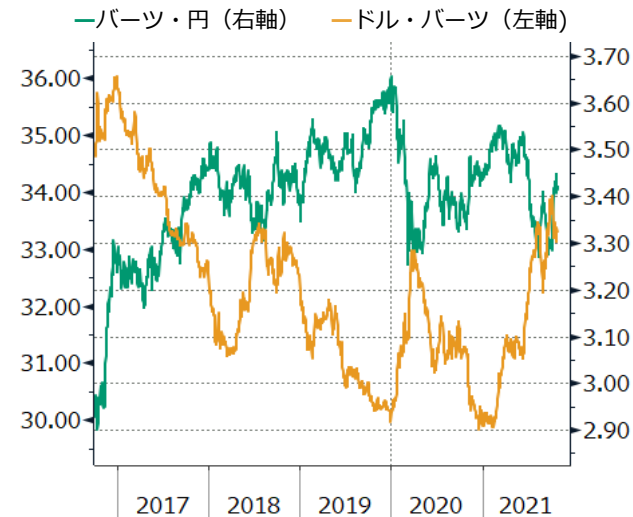
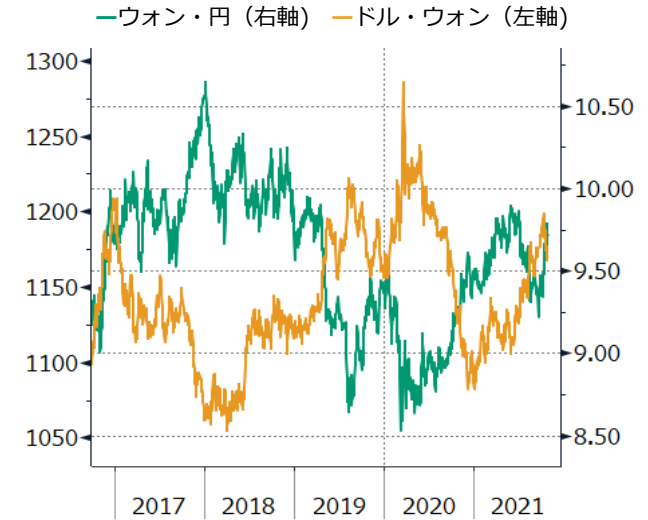
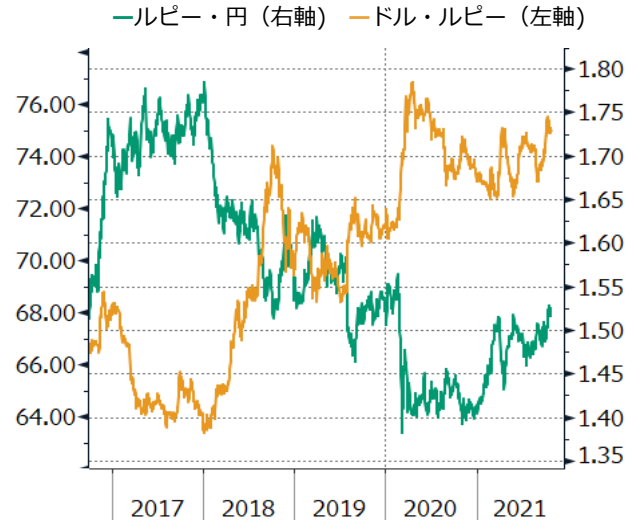
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 新興国通貨チャート



© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 年間為替見通し

		2021年		2022年		ポイント
		11～12月	1～3月	4～6月	7～9月	
ドル円	レンジ	109～115	110～115	110～120	108～118	FRBの早期テーパリング&利上げ前倒し期待からドル円相場は底堅い推移を予想する。
	期末値	112	113	115	113	
ユーロドル	レンジ	1.12～1.19	1.10～1.18	1.10～1.16	1.10～1.18	ECBの戦略見直しにより、FRBと比較して緩和は長期化する見込み。独メルケル首相の引退や仏大統領選等、政治リスクもユーロの重石となり、ユーロ安トレンドが継続する。
	期末値	1.14	1.13	1.12	1.13	
ユーロ円	レンジ	124～133	124～133	122～132	120～135	
	期末値	128	128	128	127	
ポンドドル	レンジ	1.32～1.39	1.30～1.34	1.29～1.40	1.28～1.38	主要国のワクチン接種普及に伴い、足元の英国の高い普及率の優位性が薄れることに加え、英中銀の金融引き締めへの慎重な姿勢もポンドの上値を抑えるとする。
	期末値	1.33	1.31	1.34	1.33	
ポンド円	レンジ	148～158	144～158	143～157	145～158	
	期末値	151	149	154	150	
ドル人民元	レンジ	6.35～6.70	6.40～6.80	6.35～6.80	6.30～6.70	中国経済減速と米金融緩和縮小を背景に当面は緩やかなドル高元安とみる。来年後半にかけてはドル高一服と景気支援もあり再度元高基調に転換と予想。
	期末値	6.50	6.60	6.50	6.45	
人民元円	レンジ	16.4～17.5	16.5～17.6	16.8～18.2	16.7～18.1	
	期末値	17.2	17.1	17.7	17.5	
豪ドル円	レンジ	84.0～90.0	84.0～92.0	86.0～93.0	85.0～93.0	資源高や金融政策格差を背景に中期的な上昇を予想、来年後半以降にはリスク選好の動き一服
	期末値	86.0	88.0	90.0	87.0	
タイバーツ円	レンジ	3.25～3.55	3.30～3.70	3.30～3.70	3.20～3.60	感染者数の一旦のピークアウトから持ち直しも、当面のタイ経済は弱含みが警戒され上値重い
	期末値	3.40	3.50	3.50	3.40	

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
11/1(月)	10年債入札	10月ISM製造業景況指数	(中) 10月製造業PMI
11/2(火)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (9/21~22開催分)		(豪) 準備銀行理事会
11/3(水)	(文化の日)	10月ADP雇用統計 10月ISM非製造業景況指数 9月製造業受注 FOMC (結果発表)	
11/4(木)		9月貿易収支	(英) BOE金融政策委員会
11/5(金)	9月家計調査	10月雇用統計	
11/6(土)			(中) 10月貿易統計
11/7(日)		(夏時間終了)	
11/8(月)		3年債入札	
11/9(火)	10月景気ウォッチャー調査 30年債入札 9月毎月勤労統計 (速報)	10月PPI 10年債入札	(独) 11月ZEW景気指数
11/10(水)		10月CPI 30年債入札	(中) 10月CPI
11/11(木)	10月企業物価指数	(退役軍人の日)	
11/12(金)			

	日本	米国	その他
11/15(月)	7-9月期GDP (一次速報値)	11月NY連銀製造業景気指数	(中) 10月生産・小売・投資
11/16(火)	5年債入札	10月小売売上高	(欧) 7-9月期GDP (速報値)
11/17(水)	10月貿易統計 9月機械受注	10月住宅着工・許可件数 20年債入札	
11/18(木)	20年債入札	11月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	
11/19(金)	10月消費者物価指数		
11/22(月)		10月中古住宅販売 2年債入札 5年債入札	
11/23(火)	(勤労感謝の日)	7年債入札	(欧) 11月PMI (速報値)
11/24(水)		10月個人所得・消費支出 10月新築住宅販売 7-9月期GDP (改定値) FOMC議事要旨	(独) 11月IFO企業景況感指数
11/25(木)	40年債入札	(感謝祭)	
11/26(金)			
11/29(月)			
11/30(火)	10月鉱工業生産 10月住宅着工件数 10月労働力調査 2年債入札		(中) 11月PMI



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【9/24～10/8】

◎ 9月製造業PMI 1年7カ月ぶり基準値割れ

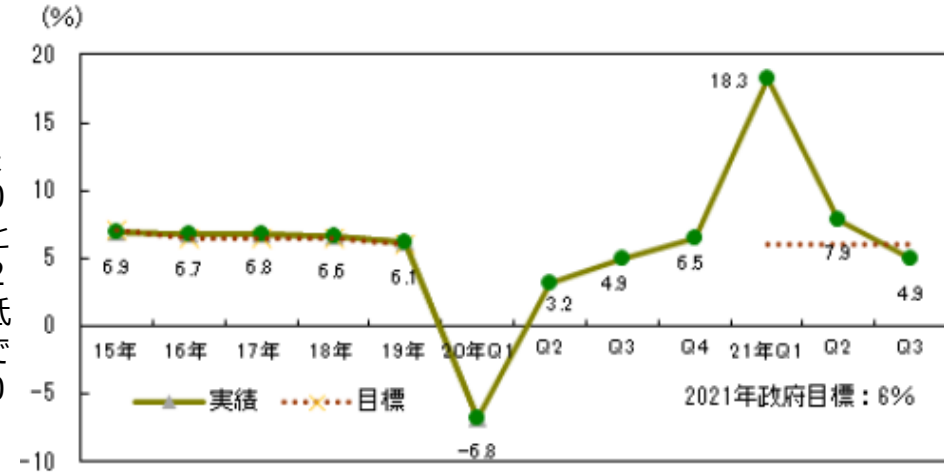
中国国家统计局が9月30日に発表したデータによると、景況感を示す製造購買担当者指数（PMI）が9月は49.6だった。先月から0.5ポイント下がり、6カ月連続の下落となった。景況判断の基準値となる50を割り込むのは、新型コロナウイルスが直撃した2020年2月以来初めて。原材料コスト高、電気の供給制限及び海外市場の需要低迷を背景に、中小企業の景況感が冷え込みが顕在化しつつある。一方で、非製造業PMIは5.7ポイント上昇し53.2と2カ月ぶりに50ポイント台に回復した。

【10/8～10/14】

◎ 人民銀企業景況感調査を発表

中国人民銀行が8日に発表した第3四半期の企業家調査結果によると、足元の経済状況について「冷え込んでいる」との回答は全体の23.9%だった。第2四半期を3.4ポイント上回った。また、「正常」との回答数は72.6%に上り、「過熱」は3.5%だった。「過熱」と「正常」を基に算出する「経済熱度指数」は39.8%で、第2四半期から2.2ポイント低下したが、前年同期比では12.1ポイント上昇した。同調査は、全国の工業企業5,000社余りを対象に実施した。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【10/15～10/21】

◎ 第3四半期GDP成長率4.9%に鈍化

中国国家統計局のデータによると、第3四半期（7～9月）の実質国内総生産（GDP）の成長率は前年同期比4.9%で1年ぶりの低水準だった。同局報道官によると、7～9月は外需低迷、商品価格の高止まり、新型コロナウイルスの国内拡大及び各地水害の発生などが悪材料となった。また、期間中に広がった全国的な電力不足が生産活動への打撃や不動産景気過熱防止に向けた措置もある程度経済成長に影響を与えたと指摘した。一方で、政府は通年目標（6%）の実現に自信を示している。

◎ 第3四半期中小企業景況感1年ぶりの低水準

中国中小企業協会が発表した2021年第3四半期（7～9月）の中国中小企業発展指数（基準値100）は87.7に下落し、1年ぶりの低水準を記録した。業種別では対象8業種のうち、「不動産」・「工業」・「建設」・「社会サービス」・「通信・ソフトウェア」は下落、「卸売・小売」・「ホテル・飲食」は上昇、「交通運輸」は横ばいだった。電力不足や原材料コスト上昇など、経営環境には依然として不確実性が多い中、政府は中小企業に向けた減税措置など支援を強化する姿勢を示している。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/11	2020/12	2021/1	2021/2	2021/3	2021/4	2021/5	2021/6	2021/7	2021/8	2021/9
実質GDP成長率	%	-	6.5	-	-	18.3	-	-	7.9	-	-	4.9
消費者物価上昇率	%	-0.5	0.2	-0.3	-0.2	0.4	0.9	1.3	1.1	1.0	0.8	0.7
都市部調査失業率	%	5.2	5.2	-	5.5	5.3	5.1	5.0	5.0	5.1	5.1	4.9
輸出額	10億ドル	266.9	281.7	263.7	204.7	240.9	263.6	263.8	281.4	282.7	294.3	305.7
輸入額	10億ドル	192.7	205.9	201.8	169.1	229.0	222.4	219.5	230.2	226.3	235.9	239.0
経常収支	100万ドル	-	273,980	-	-	69,446	-	-	122,749	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,178.5	3,216.5	3,210.7	3,205.0	3,170.0	3,198.2	3,221.8	3,214.0	3,235.9	3,232.1	3,200.6
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.60	6.54	6.47	6.46	6.51	6.52	6.42	6.43	6.48	6.48	6.46

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○「重陽節」について

10月14日は旧暦の9月9日で、中国ではこの日を「重陽節」と言います。古典「易経」では「九」という数字は「陰陽」の陽の数とされ、「九」が二つ重なる日を「重陽」とされています。重陽節はまた「敬老の日」でもあり、お年寄りを見舞う行事も多く行われます。

上海市民政局が9月30日に発表したデータによると、上海市内においては同時点まで、百歳以上の長者は3,418名だったと分かりました。男女割合については1：3で最年長者は黄浦区在住の女性（114歳）だそうです。上海の百歳長者は17年に2千名に達し、20年に初めて3千名を突破したと報じられています。

ここ数年、中国でも高齢化社会の進行が加速しており、上海は最も深刻なエリアの一つでもあります。高齢化社会に伴う様々な諸課題への挑戦と同時に、敬老の伝統を守り続けることがさらに重要になると感じます。

○中国式グランピングについて

中国ではここ1年、グランピングが若者の間で人気を呼んでいます。国内SNSの「小紅書」が発表したデータによると、国慶節ゴールデンウィーク期間中にアップされた関連コンテンツは前年同期比10倍以上（1,116%）増加したことが明らかになりました。また、全国におけるキャンプ場は2019年の50カ所から500カ所に急増した模様です。

実を言うと、中国のグランピングも日本で流行っているスタイルと同様で、自分で必要な用具を用意しテントを立てることまで自らやるのではなく、多くの人は手ぶらでグランピングサービスを提供するホテルあるいは民宿に入って、短時間かつ低コストで体験できる消費項目として楽しんでいるようです。

まだ体験したことはありませんが、経験豊富な友達に一度連れて行ってもらいたいと思います。



◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年11月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行が発表した2021年8月の主要経済指標（速報値）によれば、タイ経済への新型コロナウイルス感染症が悪影響が続いた。民間消費指数は前年同月比9.2%下落。民間投資指数は同9.6%上昇。機械・設備を中心とした資本財の輸入が増加したが、建設投資分野が小幅改善した。建設現場での新型コロナ抑制策が緩和されたことが挙げられる。工業生産は低下した。海外で新型コロナウイルス感染拡大の深刻化により、仕向け先で需要減退したことや、世界的な半導体不足、新型コロナ抑制に伴う工場の操業の一時停止等が背景にある。外国人旅行者は前月比減少した。一方、公共投資は大幅に増加した。

◆タイ商務省によると、2021年8月の輸出額は前年同月比8.9%増の219億7,623万米ドルと、6カ月連続で前年同月を上回ったものの、4月から4カ月連続で続いていた2桁増からは1桁に鈍化した。農産物・加工品の輸出は前年同月比23.6%増と9カ月連続のプラスとなった。工業製品は同3.3%増で6カ月連続のプラス成長。自動車・同部品、二輪車・同部品、鉄鋼・同製品、石油関連製品、コンピューター・同部品等

の輸出が増加した。家具・同部品、洗濯機・乾燥機等は減少。市場別では米国向けが最多。中欧州連合（EU）、日本、東南アジア諸国連合（ASEAN）向けはいずれも2桁の伸びとなった。CLMV諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）向けはほぼ横ばいだった。オーストラリア向けは2カ月連続でマイナス成長。8月の輸入額は同47.9%増の231億9,189万米ドルで、貿易収支は12億1,566万米ドルの赤字となった。一方、8月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル=33.09パーツで、前月の32.61パーツ比パーツ安だった。

◆タイ商務省が発表した9月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比1.68%上昇した。政府が新型コロナウイルスの影響緩和に向けて実施した電気・水道等公共料金の引き下げ措置が終了しほか、燃料価格が値上がりしたことが挙げられる。食品・飲料は同1.16%下落。非食品は同3.60%上昇。また、今年1～9月のCPI平均値は前年同期比0.83%上昇。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/11	2020/12	2021/1	2021/2	2021/3	2021/4	2021/5	2021/6	2021/7	2021/8	2021/9
実質GDP成長率	%	-	-4.2	-	-	-2.6	-	-	7.5	-	-	-
消費者物価上昇率	%	-0.4	-0.3	-0.3	-1.2	-0.1	3.4	2.4	1.3	0.5	-0.0	1.7
失業率	%	1.9	1.9	1.9	1.9	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	-
輸出額	100万ドル	18,960	20,076	19,707	20,219	24,222	21,429	23,058	23,699	22,651	21,976	-
輸入額	100万ドル	18,880	18,958	19,909	20,212	23,512	21,247	22,262	22,754	22,467	23,192	-
経常収支	100万ドル	-1,294	-574	-903	-1,347	-939	-733	-2,214	-1,430	-456	-2,536	-
外貨準備高	10億ドル	253.5	258.1	256.8	253.9	245.5	250.4	251.8	246.5	248.0	252.0	244.7
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
対ドル為替レート	パーツ	30.5	30.1	30.0	30.0	30.8	31.3	31.3	31.5	32.6	33.1	33.1

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

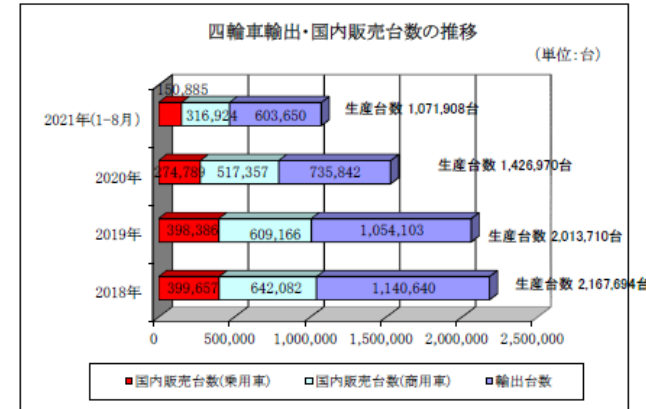
タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

タイにおける自動車産業の動向

出所:タイ工業連盟 (FTI)

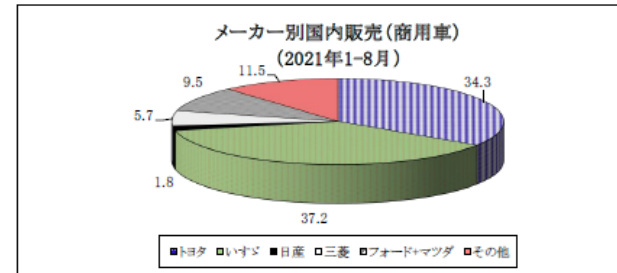
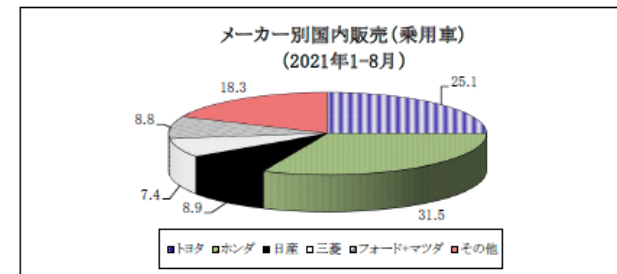
		2018年	2019年	2020年	2021年 (1-8月)	前年同期比 (%)	8月
【台数】 (台)							
四輪	生産台数	乗用車	884,609	804,340	542,437	124.5	41,258
		商用車	1,283,085	1,209,370	884,533	136.4	62,886
		合計	2,167,694	2,013,710	1,426,970	131.9	104,144
	国内販売台数	乗用車	399,657	398,386	274,789	150.885	13,845
		商用車	642,082	609,166	517,357	106.6	28,331
		合計	1,041,739	1,007,552	792,146	102.4	42,176
輸出台数		1,140,640	1,054,103	735,842	603,650	131.9	59,571
二輪	生産台数	2,063,076	1,948,480	1,615,319	1,169,477	124.5	80,474
	国内販売台数	1,788,323	1,718,587	1,516,096	1,092,326	107.9	104,424
	輸出台数	886,275	948,839	727,152	651,162	143.1	76,979
【完成車輸出金額】 (百万バーツ)							
四輪		594,810	545,968	410,912	349,876	139.1	35,737
二輪		61,654	69,933	85,802	54,111	143.9	6,056



【メーカー別国内販売台数】

出所:トヨタ自動車

		2018年	シェア (%)	2019年	シェア (%)	2020年	シェア (%)	2021年 (1-8月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	8月
トヨタ	乗用車	112,394	28.1	117,708	29.5	68,152	24.8	37,864	94.1	25.1	3,694
	商用車	202,719	31.6	214,672	35.2	176,164	34.1	108,725	116.7	34.3	8,670
	合計	315,113	30.2	332,380	33.0	244,316	30.8	146,589	109.9	31.3	12,364
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	177,864	27.7	168,215	27.6	181,194	35.0	117,880	109.1	37.2	11,035
	合計	177,864	17.1	168,215	16.7	181,194	22.9	117,880	109.1	25.2	11,035
ホンダ	乗用車	95,793	24.0	96,154	24.1	77,419	28.2	47,557	101.5	31.5	4,906
	商用車	32,497	5.1	29,679	4.9	15,622	3.0	7,461	81.7	2.4	439
	合計	128,290	12.3	125,833	12.5	93,041	11.7	55,018	98.3	11.8	5,345
日産	乗用車	43,991	11.0	35,809	9.0	27,120	9.9	13,491	78.9	8.9	945
	商用車	28,403	4.4	28,605	4.7	17,438	3.4	5,810	46.4	1.8	578
	合計	72,394	6.9	64,414	6.4	44,558	5.6	19,301	65.2	4.1	1,523
三菱	乗用車	31,594	7.9	38,879	9.8	22,363	8.1	11,198	80.2	7.4	1,031
	商用車	52,966	8.2	49,365	8.1	35,046	6.8	18,219	83.9	5.7	1,653
	合計	84,560	8.1	88,244	8.8	57,409	7.2	29,417	82.5	6.3	2,684
その他	乗用車	115,885	29.0	109,836	27.6	79,735	29.0	40,775	125.2	27.1	3,269
	商用車	147,633	23.0	118,630	19.5	91,893	17.7	58,829	111.5	18.6	5,956
	合計	263,518	25.4	228,466	22.7	171,628	21.8	99,604	116.8	21.3	9,225
合計	乗用車	399,657	100.0	398,386	100.0	274,789	100.0	150,885	94.6	100.0	13,845
	商用車	642,082	100.0	609,166	100.0	517,357	100.0	316,924	106.6	100.0	28,331
	合計	1,041,739	100.0	1,007,552	100.0	792,146	100.0	467,809	102.4	100.0	42,176



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。